

様式3

第2期中期目標期間(平成25年度～30年度)

静岡県公立大学法人

第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

令和元年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 静岡県公立大学法人の第2期中期目標期間における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5制定)に基づき、第2期中期目標期間(平成25年度~30年度)の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 事業年度評価の結果を踏まえつつ、中期目標の達成状況を調査・分析し、中期目標期間の業務実績全体について総合的な評価を行った。
- (2) 教育研究の状況については、その特性に配慮し、認証評価機関の評価を踏まえて評価を行った。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

静岡県公立大学法人（以下「法人」という。）の第2期中期目標期間（平成25年度～30年度）に係る業務実績に関しては、全体として「**中期目標の達成状況が良好である**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、平成19年4月から地方独立行政法人法に基づき、静岡県立大学及び静岡県立大学短期大学部を、「**学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、時代の要請及び地域社会の要請に応え得る有為な人材を育成し、併せて開かれた大学として優れた教育・研究の成果を地域社会はもとより国際社会に還元し、もって文化の向上及び社会の発展に積極的に寄与する**」ことを目指す大学として設置し、教育研究等の質の向上、業務運営の改善などに積極的に取り組んだところであるが、法人の中期目標の各項目における達成状況は以下のとおりであり、4項目の全てが「**中期目標の達成状況が良好である**」と認められることから、これらの状況を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

ア 「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」について

各種国家試験において高い合格率となったほか、理事長・学長のリーダーシップによる新たな教育課程の導入、薬食融合学際領域における先端研究、「地（知）の拠点整備事業¹」を活かした地域志向の人材育成などの成果をあげており、「中期目標の達成状況が良好である」と評価する。

イ 「法人の経営に関する目標」について

科学研究費補助金、受託研究・共同研究等について、獲得件数及び獲得金額が着実に増加するなど、「中期目標の達成状況が良好である」と評価する。

ウ 「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」について

中期目標、中期計画の達成に向け、自己点検及び評価を重ね、評価結果を大学運営や教育研究の改善等に反映させた。また、民間調査会社の**全国大学調査での大学公式サイトに対する高い評価や薬学100周年、開学30周年の積極的な広報など、「中期目標の達成状況が良好である**」と評価する。

¹ 地（知）の拠点整備事業：大学等が持つ知的資源を集約し、地域が直面している様々な課題を解決する取組のうち、特に優れたものを支援するための文部科学省の補助事業。大学COC(Center of Community)事業とも呼ばれる。

エ 「その他業務運営に関する重要目標」について

男女共同参画やワーク・ライフ・バランスに関する啓発や多目的保育支援施設の開設などに積極的に取り組んでおり、「**中期目標の達成状況が良好である**」と評価する。

なお、第3期中期目標期間においては、これまでの取組を更に前進させるとともに、中期目標に新たに掲げられた「**年齢層や国籍等を問わず、多様な人材が集まる大学づくり**」、「**時代の要請や地域社会の要望の変化に対応した質の高い教育研究**」、「**全学を挙げての積極的な地域貢献**」、「**グローバル化施策の着実な推進**」をより高い水準で実現し、県民に支持され続ける魅力ある大学づくりを進めていくことを期待する。

〔参考〕項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	非常に優れている	良好である	おおむね良好である	不十分である	重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	非常に優れている	良好である	おおむね良好である	不十分である	重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	非常に優れている	良好である	おおむね良好である	不十分である	重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	非常に優れている	良好である	おおむね良好である	不十分である	重大な改善事項がある

第3 項目別評価

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関しては、「中期目標の達成状況が良好である」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、中期目標として指示された「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」を達成するため、中期計画として131項目を定め業務を実施してきたところであるが、当評価委員会の検証の結果、15項目が「**計画を上回って実施している**」、113項目が「**計画を十分に実施している**」、3項目が「**計画を十分には実施していない**」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 認証評価結果

平成29年3月には、文部科学大臣の認証を受けた評価機関である公益財団法人大学基準協会の認証評価²により、「**大学基準に適合している**」との認定を受け、特に、「**薬食融合**」を目指して、**薬学及び食品栄養環境科学の両分野の研究科を統合し、世界で唯一の「大学院薬食生命科学総合学府」を2012（平成24）年に新設したこと**」や「**地域貢献を目的とする事業に全学を挙げて積極的に取り組み、薬食融合や防災情報関係の研究の産業界への還元、大学COC事業の拠点である「ふじのくに」みらい共育センターによる連携先の自治体と共同した事業等へ発展させた点**」について、高い評価を得ている。

なお、評価機関から受けた大学7項目、短期大学部2項目の「**努力課題**」の助言については、令和2年7月末日までにその対応状況を改善報告書として取りまとめ提出することが求められており、対応未了の事案が生じることのないよう、**全学を挙げて課題に対応することが必要**である。

2 優れた点、特色ある点、改善を要する点等

(1) 優れた点

- 国家試験対策に積極的に取り組んだ結果、薬剤師、管理栄養士、看護師、助産師などの**各種国家試験において全国平均を上回る高い合格率**となった。特に助産師は第2期中全ての年度で合格率100%であった。(No. 4、6、12、21、24)

² 認証評価：教育研究水準の向上に資するため、全ての大学、短期大学及び高等専門学校に7年以内ごとに受審が義務付けられた、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価(学校教育法第109条第2項)。

- ・ **学生のキャリア形成に対する支援を推進**するため、キャリア形成のための講座、セミナーを実施するなどキャリア意識の涵養に努めたほか、繁忙期の学生へのアドバイザーの増員や求人開拓員による県内における求人先の確保に努めるなど、**就職支援体制を整備し、毎年 100%近い就職率**となった。(No.78、79)
- ・ **オープンキャンパスの 1 日 2 部制の導入や、模擬授業の実施**など、開催運営方法の改善に努め、**1,000 人以上参加者数が増加した**。(No.25)
- ・ 平成 24 年度に設置した薬食生命科学総合学府等における薬食を融合した学際的研究を中心に、**学会において多数の学生が受賞**するとともに、平成 29 年度には**科学研究費補助金**について食生活学、環境・衛生系薬学、統合栄養科学等**多くの細目で全国上位の採択数を記録**するなどの成果を挙げた。(No.84)
- ・ **受託研究・共同研究**について、**企業とのマッチング**に努めた結果、第 1 期の 513 件を大きく上回る 681 件の研究を実施した。(No.115、116)

(2) 特色ある点

- ・ 全学共通科目において、「**しずおか学**」科目群³の**新設・拡充**を図り、文系・理系を問わず地域を学ぶ視点から教養科目を充実した。(No.1)
- ・ 理事長・学長のリーダーシップのもと、**経営情報学部への観光教育の導入及び国際関係学部における時代に即したカリキュラムへの見直し**を行い、教育内容の魅力向上を図った。(No.28、62)
- ・ 言語教育以外での**英語による科目の増設**や海外協定校との**留学・語学研修プログラムの拡充**を進め、英語教育の充実を図った。(No.32)
- ・ 平成 26 年度に文部科学省「**地(知)の拠点整備事業**」(COC事業)に**県下で唯一採用**され、「ふじのくに」みらい共育センターを中心とした学部横断的な地域貢献体制のもと、連携自治体と緊密に連携し、広範な地域貢献活動を推進した。(No.82、109)
- ・ **グローバル地域センター**において、国内外での調査研究を展開し、県内でのシンポジウム等を通じ**研究成果を地域に積極的に還元**した。(No.96)

3 「しずおか学」科目群：教養教育である全学共通科目のうち、地域(しずおか)のことを学ぶ科目群のこと。

- ・ 技術説明会への積極的な参加や金融機関を交えた県内企業とのマッチング会の開催により**企業との連携を推進し、受託研究・共同研究や技術移転の促進**に取り組んだ。(No.105、115)
- ・ 第2期において、**新たに7校の海外大学と交流協定を締結**し、平成30年度末現在の協定数は、14か国26大学等となった。また、交換留学生の派遣や受入れなど協定締結校を中心とした交流の拡大に努めた。(No.124)

(3) 改善を要する点

- ・ **看護学研究科**については**定員未充足**の状況が続いており、**社会人が学びやすい環境整備等**、実効性のある定員確保策の実行が必要である。(No.20)
- ・ 平成26年度、平成27年度、平成29年度、平成30年度に**入試ミスが発生**した。信頼回復に向け、これまでの再発防止策を再確認し、新たな入試制度の導入が見込まれる第3期に向け、**実効性のある再発防止策**を講じていくことが必要である。(No.27)
- ・ 留学生数の減少が進むなど、**グローバル化の進展に遅れ**が見られる。第3期においては、**明確な留学生の確保・育成方針のもと、留学生のニーズやキャリアパスを考慮**した教育研究及び生活環境の整備等により**留学生受入を推進**するとともに、**より多くの日本人学生を国内外で活躍できる人材として育成**する必要がある。(No.123)

(4) 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 「**しずおか学**」科目群について、今後は、地域への理解・愛着、グローバルな視野の醸成等の人材育成の観点や履修状況を踏まえた内容の検証・改善により、更なる質的向上の取組を期待する。(No.1)
- ・ 平成24年度に発足した**薬食生命科学総合学府**は、幅広い分野にわたる科学研究費補助金の採択や、所属学生の各種学会における多数の受賞等の成果を挙げるなど、**県立大学の教育研究の先導的役割**を果たしている。
一方、学府内の一部の専攻において**学生確保に困難**を来しており、学府全体の定員も充足していないことから、実効性のある学生確保策の実行及び専攻等の在り方の見直しが必要である。(No.16、17)
- ・ 全学的に**産学連携・大学間連携**による教育を推進し、**社会人や留学生等の多様な学生**に対する教育の実施体制を整備するよう期待する。(No.64)

- ・ 学生の就職支援に当たっては、大学の推進する地域志向の人材育成と連動し、**県内産業界と連携した県内企業の魅力を伝える取組**を期待する。(No.78、79)
- ・ 第3期における研究に当たっては、県内産業界との連携のもと、**地域産業の高度化**、さらには**新産業の創出等に資する研究**に積極的に取り組むよう期待する。(No.83)
- ・ 平成30年度に包括連携協定を締結した賀茂1市5町を含め、今後も引き続き地域社会との連携を強化・拡充するとともに、地域経済団体等を通じ、**広範な企業・団体との協力関係を構築**するよう期待する。(No.109)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 教育	82	7	73	2	0
2 研究	26	3	23	0	0
3 地域貢献	14	4	10	0	0
4 グローバル化	9	1	7	1	0
合 計	131	15 (11.4%)	113 (86.3%)	3 (2.3%)	0

法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の達成状況は、「**中期目標の達成状況が良好である**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、中期目標として指示された「法人の経営に関する目標」を達成するため、中期計画として19項目を定め業務を実施してきたところであるが、当評価委員会の検証の結果、19項目全て「**計画を十分に実施している**」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

2 優れた点、評価に当たったの意見、指摘等

(1) 優れた点

科学研究費補助金、受託研究・共同研究等の外部資金について、全教員に向け積極的な取組を促したことにより、第1期と比較して期間中の**年平均獲得件数は約13%増加**した。獲得金額については大型研究プログラム資金が終了した影響により、第1期の水準には満たないが、概ね堅調に推移した。(No.101)

(2) 評価に当たったの意見、指摘等

社会の要請や教育研究の進展を踏まえ、理事長・学長のリーダーシップのもと、**大学間連携の推進や教育研究組織の在り方の検討**を行うなど、**大学の機能強化と魅力の向上に取り組む**よう期待する。(No.132、133)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 業務運営の改善	11	0	11	0	0
2 財務内容の改善	8	0	8	0	0
合計	19	0	19 (100.0%)	0	0

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の達成状況は、「**中期目標の達成状況が良好である**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、中期目標として指示された「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」を達成するため、中期計画として4項目を定め業務を実施してきたところであるが、当評価委員会の検証の結果、4項目全てが「**計画を十分に実施している**」と認められ、これらの状況を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

2 特色ある点、評価に当たったの意見、指摘等

(1) 特色ある点

大学公式サイトをリニューアルし、**使いやすいサイトとして民間調査会社の調査で高評価**を得た。また、**薬学 100 周年、開学 30 周年**に当たり、公式サイトや新聞広告を活用した**積極的な情報発信**を行った。(No.153)

(2) 評価に当たったの意見、指摘等

広報に当たっては、**世界大学ランキング**⁴等を通じ、**大学の強み・弱みを分析**し、また、留学生や社会人等の多様な学生の確保を念頭に、**国内外問わず、効果的な発信**を追求していくことを期待する。(No.153)

[参考] 小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 評価の充実	1	0	1	0	0
2 情報公開・広報の充実	3	0	3	0	0
合計	4	0	4 (100.0%)	0	0

4 世界大学ランキング：英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」誌が毎年発表するランキング。静岡県立大学は2018年(平成30年)版からエントリーしている。

その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の達成状況は、「**中期目標の達成状況が良好である**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、中期目標として指示された「その他業務運営に関する重要目標」を達成するため、中期計画として12項目を定め業務を実施してきたところであるが、当評価委員会の検証の結果、1項目が「**計画を上回って実施している**」、また11項目が「**計画を十分に実施している**」と認められ、これらの状況を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

2 特色ある点

男女共同参画や**ワーク・ライフ・バランス**について、学生向け及び教職員向けの講演会、セミナー、研修会等の**啓発活動を積極的に実施**したほか、**多目的保育支援施設**の開設等によりワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいる。(No.164)

(参考)小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設・設備の 整備、活用等	1	0	1	0	0
2 安全管理	7	0	7	0	0
3 社会的責任	4	1	3	0	0
合計	12	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0	0

業務実績評価集計表（第2期中期目標期間）

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育 研究等	教育	82	7	73	2	0
	研究	26	3	23	0	0
	地域貢献	14	4	10	0	0
	グローバル化	9	1	7	1	0
	合 計	131	15 (11.5%)	113 (86.2%)	3 (2.3%)	0
法人経営		19	0	19 (100.0%)	0	0
自己点検		4	0	4 (100.0%)	0	0
その他		12	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0	0
総合計		166	16 (9.6%)	147 (88.6%)	3 (1.8%)	0

業務実績評価集計表（第1期中期目標期間）

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育 研究等	教育	101	6	92	3	0
	研究	33	9	24	0	0
	地域貢献	24	5	19	0	0
	グローバル化	10	2	8	0	0
	合 計	168	22 (13.1%)	143 (85.1%)	3 (1.8%)	0
法人経営		33	0	28 (84.9%)	4 (12.1%)	1 (3.0%)
自己点検		10	0	10 (100.0%)	0	0
その他		14	1 (7.1%)	12 (85.8%)	1 (7.1%)	0
総合計		225	23 (10.2%)	193 (85.8%)	8 (3.6%)	1 (0.4%)